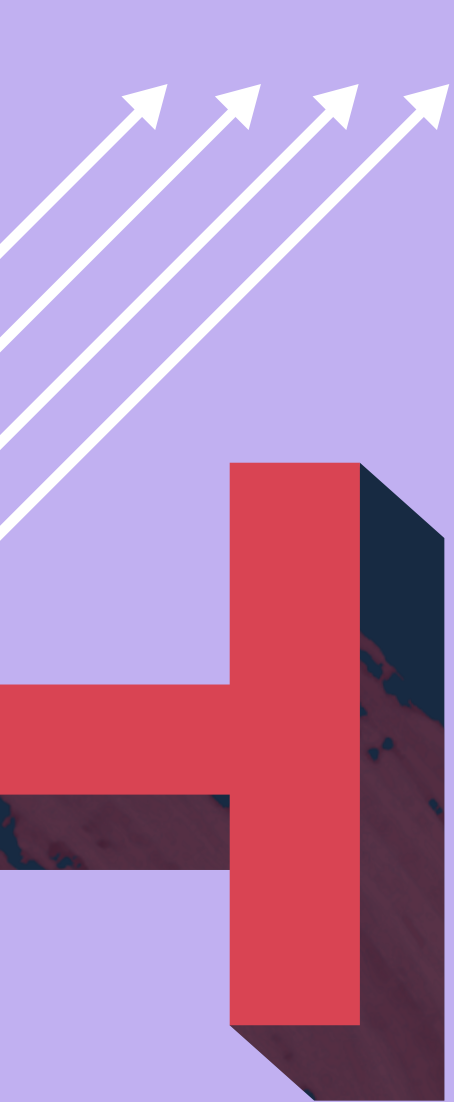


HOW TO



GOOGLE アプリ 活用法

IPAD編






複数のテクノロジーエコシステムを 最大限に活用するために

Googleのサービスは、世界中の教育機関やビジネスでコラボレーションと生産性の向上を促進しています。特に教育分野においては、Googleの教育関連ツールをすでに利用している、または検討している学校の多くは、Googleを活用するためにはChromebookが必要だと考えています。しかし実際は、AppleのハードウェアとGoogleの優れたサービスを組み合わせることで、生徒や教師、保護者により豊かな教育の可能性を提供することができます。

では、具体的に何をすればいいのでしょうか？

このeBookのトピック

-  AppleハードウェアでGoogleを使うメリット
-  GoogleとAppleを統合させる方法
-  各エコシステムの共同管理を成功させる方法

iPadの メリット

Appleのテクノロジーは主にユーザーを中心に据えて作られており、ハードウェアやシンプルなワークフロー、デバイスの柔軟性、カスタマイズ機能などにこの考えが反映されています。

ハードウェア

iPadは、高解像度のタッチスクリーン、高速プロセッサ、長いバッテリー寿命を備えており、Chromebookよりも長く価値を維持することが証明されています。

革新的な教育は、型にはまった学びからは生まれません。iPadの場合、フォームファクタが柔軟でキーボードがないため、外出先でもソファの上でも同じように使用することができます。キーボードを必要とするタスクがある場合でも、生徒のニーズに応じる方法は複数あります。レコーディングスタジオ、映像編集スタジオ、コラボレーションツールなど、必要に応じてその姿を変えるiPadは、クリエイティブな学習の火付け役となり、新たな学習への扉を開いてくれます。





シンプル

ソフトウェアの観点から見れば、iOSは大衆受けするデバイスに必要な「シンプルさ」と「生産性」を備えています。直感的で使いやすいユーザーインターフェースの魅力はもちろん、App Storeで新しいソフトウェアを見つけて簡単にインストールできるため、教育関係のリソース調達の面でも非常に優れています。

これらの機能に加え、身体的能力に関わらずすべてのユーザにテクノロジーを活用する機会を与えるための、豊富なアクセシビリティのオプションを備えています。

柔軟性

新しいiPadの箱を開けるとき、あるいは中古のiPadをリセットするとき、そこには無限のポテンシャルが詰まっています。アクセサリはiPadを次なるレベルへと引き上げてくれます。ペンを加えれば、それは素晴らしい絵やメモを描くためのキャンバスになります。Spheroなどのロボットやドローンとペアリングすれば、コードが目に見えるものになります。シンプルなキーボードを接続すれば、ノートパソコンとして使えます。iPadを強化するためのアクセサリやオプションは数え切れないほどあります。iPadはただのガラス板ではありません。ユーザが望むものに姿を変えてくれるのです。



カスタマイズ機能

トップの人気を誇るパーソナルデバイスであるiPadが生まれた時、それが管理ツールによって制御されたりロックされたりする事態はAppleも想定していませんでした。App Storeには膨大な数のアプリが公開されており、どんな目的にも必ずそれを叶えてくれるアプリが存在します。iPadは、特定のシステムや使用方法に縛られることはありません。Googleを含む多くのソフトウェアを活用し、エコシステムを統合して好みに合わせてカスタマイズする道も開かれています。

iPadと相性の良い Googleアプリ

Google Classroomは、Google Suiteに含まれるアプリのひとつです。他にも多数のアプリがありますが、教育機関がiPadでGoogle Classroomと組み合わせて使うことのできるアプリをいくつか紹介します。



Gmail

Gmailは、専用のアプリがApp Storeで入手できるほか、Appleのメールアプリと組み合わせて使ったり、AppleのネイティブブラウザであるSafariからアクセスすることも可能です。



Google ドライブ

同僚や生徒とファイルを共有し、保存、検索、アクセスすることができます。個人ではなくチーム間でファイルを共有するため、メンバーが変わってもファイルは残り、情報を共有し続けながら好きな場所で好きなデバイスを使って学習ができます。Google ドライブは、教育や学習だけでなく、学校の事務スタッフにとっても便利です。



Google Docs、 Sheets、Slides

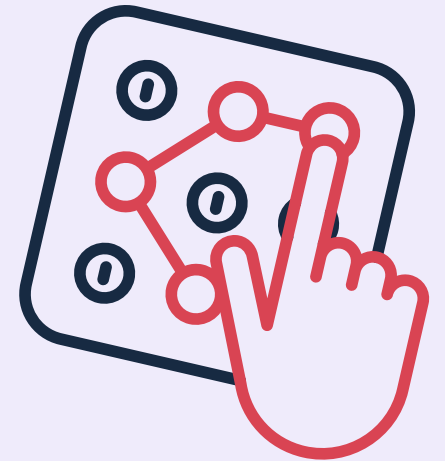


MicrosoftのWord、Excel、PowerPoint、またはAppleのPages、Numbers、Keynoteに相当するGoogle社の製品です。生産性やコラボレーションの支援に加え、これらのアプリケーションはオンラインで使用し、クラウドに直接保存することができます。多くの学校では、オンサイトのサーバを減らし、専門家を雇うコストを削減するために、クラウドの使用を選択しています。



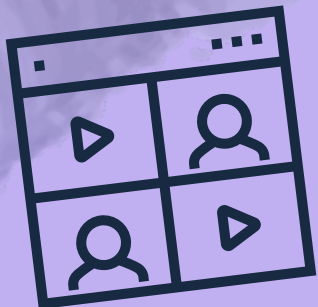
Google Meet

生徒と教師をつなげ、コラボレーションやリモート学習を支援する人気のアプリです。



iPadOS + Google アプリ

Appleのデバイスには素晴らしいテクノロジーが詰まっています。そしてGoogleには学習の可能性を無限に生み出すアプリがあります。この2つを組み合わせることの魅力とは何でしょうか？



マルチタスク

リモート、対面、そしてどのような教室環境においても、教師と学生は常に複数のことを行っています。例えば、必要なコンテンツを探し出し、ビデオを観ながらプロジェクトに取り組むといった時に、iPadをどのように活用すればいいのでしょうか？

iPadOSには、2つのアプリケーションを同時に使用できるマルチタスク機能が備わっています。ビデオを観ながら、またはGoogle Chatを使いながらGmailでメールに返信するなど、ジェスチャを利用したシームレスなアプリケーションの切り替えが可能です。この恩恵を教師と生徒の両方にもたらず素晴らしい機能が、2つのアプリの同時使用を可能にするSplit Viewです。

Split Viewでは、2つのアプリを同時に使用することができます(例: 右側にGoogle Classroom、左側にSafari)。教師の場合、Google Classroomでレッスンの情報を表示させながら、インターネットで教材やリンクを閲覧するといった使い方ができます。

iPadのDockを使うとさらに多くのアプリケーションを同時に使うことが可能で、作業中のどのアプリからでも瞬時にアプリを開いたり切り替えたりできるほか、お気に入りのアプリをすぐに利用できるようにカスタマイズできます。

Dockはホーム画面の下にあり、いつでもアクセス可能です。アプリの使用中にDockを確認したい場合は、画面の下端から上方向にスワイプすると表示されます。Docに表示するアプリをカスタマイズできるため、各デバイスが必要とするGoogleアプリへの簡単なアクセスが実現します。

アクセシビリティ

アクセシビリティは、Appleのコアバリューのひとつです。Appleの製品はアクセシビリティに配慮して設計されており、誰もが自分に最適な方法で学び、創造できるようになっています。

iPadには非常に多くのアクセシビリティ機能が搭載されていますが、その中にはアクセシビリティ機能であることに気づかないものも多くあります。ここでは、その一部をご紹介します。

- 文字サイズ
- VoiceOver +点字
- AssistiveTouch
- ズーム
- 読み上げコンテンツ
- スイッチコントロール
- ダークモード
- 視差効果を減らす
- アクセシビリティキーボード
- バリアフリー音声ガイド
- 音声コントロール
- キーボードのハードウェアオプション
- 拡大鏡
- 音声入力
- 感覚的な通知
- VoiceOver
- Siri
- 「Made for iPhone」ヒアリングデバイス

こういったアクセシビリティ機能は、一部の学生にとって学習リソースにアクセスできるかどうかの分かれ目となるため、すべての人に学習の機会を届けるために不可欠なものです。

すべての生徒が輝ける教育現場を作るためにAppleのデバイスを活用する方法に興味がある方は、Appleが提供するアクセシビリティ機能を詳しく紹介した[Apple公式ウェブサイト](#)の「アクセシビリティ」セクションをご覧ください。

アプリのパワー

後にApp StoreとなるiTunes Storeを世に送り出したとき、Appleは業界で一目置かれる存在となりました。今では196万以上ものアプリが集まるマーケットプレイスになっています。

iPadやiPhoneは、エコシステムを融合させる力を持った柔軟でパワフルなデバイスへと成長しました。これを可能にしたのはアプリです。iPadでGoogleのアプリを使うことで、先生や生徒は選択肢を手に入れることができます。文章を書くのにGoogle Docsを使いたい人もいれば、Pagesを使いたい人もいるでしょう。自分に合ったものを選び、両方のエコシステムの良いところを取り入れることが可能です。AppleのSwift Playgroundsアプリを使って生徒にコーディングの基礎を教えたり、Google Classroomで宿題の配布や課題の回収を行ったり、自分の学校のニーズに合わせて好きなものを組み合わせればいいのです。

そしてそのコンビネーションは、Appleのアプリ2つでも、AppleとGoogleのアプリ1つずつでも、あるいはGoogleのアプリ2つでも構いません。先生がその日のテーマや問題を出し、分割画面でGoogle MeetとGoogle Classroomを表示させて、生徒とコミュニケーションを取りながら授業を進めるといった使い方もできます。

AppleとGoogleがそれぞれ提供しているClassroomアプリをめぐるには、しばしばユーザの間で混乱が生じています。どちらも似たようなものだと考える人もいますが、それは間違っています。AppleのクラスルームAppは、以下のような機能を提供するiPadとMacのためのパワフルなアプリです。

- 学習指導
- 教材の共有
- 生徒用デバイスの管理

教師は、授業中に生徒のiPadで特定のアプリやウェブサイト、教科書のページを表示させたり、Apple TVを使って生徒が作成したものをテレビやモニター、プロジェクターで共有することができます。その他、以下のようなこともできます。

- 生徒がどのアプリで作業しているのかを確認
- 生徒のデバイスをミュート
- 各生徒に特定の共有iPadを割り当てる
- 生徒のパスワードをリセット

さらに、授業の後で生徒が行った作業のサマリーを確認することもできます。そして何より、Google ClassroomをiPad上でAppleのクラスルームAppと連携して使うことが可能です。Google Classroom経由で生徒に課題を与え、AppleのクラスルームAppで進捗を確認するといった使い方ができるのです。

IT管理者、教師、 保護者の支援

生徒は豊富に用意されたアプリを利用して、学習を次なるレベルへと進化させることができます。しかし、世界中のありとあらゆるコンテンツや情報が簡単に手に入るようになった今、雑念を払い学習に集中するためのサポートを生徒は必要としています。また、生徒たちがツールを使いこなし、自分で選んだアプリやメディアで学びを表現するようになると、教師はファシリテーターとしての役割を果たさなければなりません。IT管理者や教師、保護者は、生徒を正しい方向に導くためにどのような支援を必要としているのでしょうか？

Jamf Teacher

Jamf Teacherは、レッスンを管理するためのツールを教師に提供し、生徒が授業に集中できる環境づくりをサポートするためのアプリです。

- レッソンの準備と共有
- アクセス管理
- メッセージの送信
- アプリのセーフリスト作成
- 注意画面の作成
- アドホックセッションの開始



Jamf Student

Jamf Studentは生徒のためのアプリです。デバイスに対して制限された権限を生徒に与えることで、ソーシャルメディアやゲームなどといった認証されていないアプリに気を取られることなく勉強に集中できる環境を提供することができます。

Jamf Parent

Jamf Parentは、アプリやデバイスの機能を制限する能力を保護者に提供するためのアプリです。

- ゲームやアプリ、ソーシャルメディアへのアクセスを特定の時間帯に対して制限またはルールを設定
- 子供が無事に学校に到達したタイミングで通知を受信
- 子供が自転車に乗っていたり、交通量の多い場所を歩いている際にアプリがオフになるよう設定
- わかりやすい設定ウィザードでアクセスルールをカスタマイズ



デバイス管理とセキュリティの一体化

クラスルームにおける最新かつ包括的なデジタル戦略において、デバイス管理とセキュリティは、もはや2つの独立した機能ではありません。ITチームや管理者は、その2つを同じコインの裏と表として捉える必要があります。この2つを結びつけるパートナーやプラットフォームに投資し、仕事とセキュリティの簡素化を目指すことが重要になります。

Jamfのデバイス管理

JamfのMDMを利用してデバイスを管理することで、デバイス購入後のゼロタッチ導入から、デバイスのセットアップ、アップデートの即日サポートまで、組織はさまざまな機能を利用できるようになります。これにGoogleのツールを組み合わせることで、さらに以下のメリットが得られます。

- すべてのAppleデバイスにGoogleのアプリを簡単配布
- Googleメールアカウントとの統合

さらに、Jamf TeacherやJamf Studentアプリと組み合わせることで、学習に集中できる環境づくりを助けるクラスルーム管理ツールにアクセスすることができます。これにより、以下のメリットが得られます。

- アプリが常にアップデートされ、いつでも必要な時に使えるので、安心してレッスンの準備をすることが可能
- 生徒が学習に集中できる環境を作り、計画的かつ生徒のためになる選択肢を与えることが可能

Jamf Safe Internet

Jamf Safe Internetでは、あらかじめ構成されたアクセス制御を活用して不適切なサイトやネットワークへの攻撃からエンドユーザを保護することができるため、安心してインターネットを使用できる環境を教育現場に作り出すことが可能です。

この機能は既存のAppleデバイスすべてに対応しており、GoogleセーフサーチやYouTubeの制限付きアクセス制限を適用することもできます。また、これらのセキュリティ機能はChromebookでも使用できるため、Googleの優れたコラボレーションツールを安心して活用できます。

Jamf Safe Internetを使ってできること

- 生徒が不適切なコンテンツにアクセスする心配をせずに、各生徒に合ったパーソナライズされた学習プランと段階的なサポートを提供
- ネットワーク侵害のリスクを負わずに、コミュニケーションにメールを活用

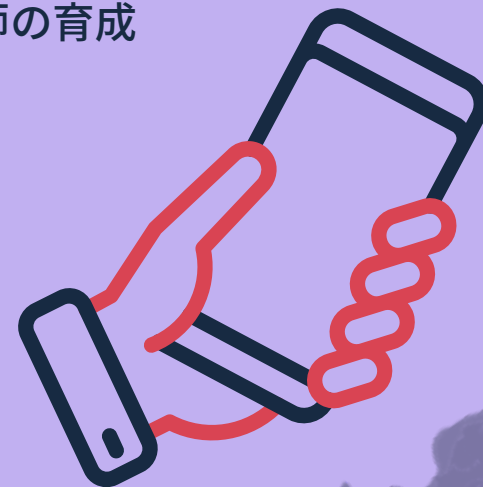
もっとも価値の高い資産である 「人」に投資する

Apple Teacher Learning Center

Appleは、教育向けソフトウェア、ハードウェア、導入システム、教師を支援するためのリソースを提供しています。これは、Appleのプラットフォームを使う教師と生徒に成功への近道を示したいというAppleの考えによるものです。

Apple Teacher Learning Programでは、教師向けのトレーニングや、教育におけるAppleの使用をサポートするイベントやプログラムを提供しています。

教育機関にとってもっとも価値ある投資とは、教師の育成に他なりません。



Google Teacher Center

Google Teacher Centerでは、あらゆるレベルの教育者向けにデザインされた無料のコースで新しいスキルを学び、教育者として成長することができます。これらのスキルはiPadでGoogleツールを使用する際にも応用できます。Apple TeacherおよびGoogle Teacherの両方のリソースをぜひチェックしてみてください。

ひとつに絞らず

どちらも活用

JAMFがあれば可能です

革新的なレッスンというものは、その形式や使われるテクノロジーではなく、生徒がどのように学ぶかによって定義されます。デバイスやアプリ、エコシステムの力を借りて生徒ひとりひとりの学習のポテンシャルを高めながらトピック主導のレッスンを行うことは、もはや未来の話ではなく、現在の学校で行われていることです。

GoogleもAppleもそれぞれ独自の素晴らしいエコシステムを作り上げていますが、両者ともさまざまな形でシームレスに融合させることが可能です。この2つのシステムは統合において相性が良いだけでなく、大きな可能性を含んだ新たな世界の扉を開いてくれるのです。

多く人は、Googleのアプリを使うのならChromebookを選ぶのがもっとも論理的であると考えerでしょう。しかし、そのような直線的な考え方から脱却し、AppleのハードウェアとエコシステムをGoogleのアプリと組み合わせたワークフローを思い描いてみてください。それはきっと、レッスンの可能性を大きく広げてくれるはずです。

Jamfは、生徒だけでなく、教師、保護者、教員など教育に関わるすべての人を支援し、ユーザの手にテクノロジーを届ける効率的な方法を提供します。Jamf TeacherとJamf Parentアプリを使えば、生徒が学習に集中できるように気が散る原因となるものを取り除き、創造性を探究・発揮しながら安心して学習に取り組むことのできる環境を実現できます。

Apple、Google、Jamfは、組み合わせることでさらに力を発揮し、生徒とユーザを中心に据えた環境の構築に貢献してくれます。これは、学校に良い変化をもたらすためのツールを教師、生徒、保護者から成る学校のコミュニティ全体に提供してくれる、最善のアプローチと言えるでしょう。

Apple、Google、Jamfが発揮するパワーに興味のある方は、今すぐ無料トライアルにお申し込みください。

こちらから